

日本都市計画学会関西支部 令和7年度シンポジウム企画案
住宅地のコミュニティデザイン - 誰からはじめる、どう進める -

地域資産を「新しいコモンズ」に変える 公益信託を活用した自治型社会モデルの構築-



2026年2月4日
NPO法人SEINコミュニティLAB 所長
公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団
代表理事 宝楽陸寛

メール
mh@npo-sein.org

IG FB



自治の本質とは？

自治とは、単なる「自治会」のことではありません

自治 = 地域が自分で回復する力
(レジリエンス)

“ 自ら治める力。医者の治療（Cure）ではなく、自分で治っていく力。 ”



「自ら治める」

他人に治してもらうのではなく
地域自身が内側から
課題を解決していくプロセス



資金は「血液」

回復力を高めるためには
栄養を届ける血液のように
資金の循環が不可欠



自走には「財布」が必要

地域が自立して動くには
自分たちで管理・調達できる
独自の財源が必要になる

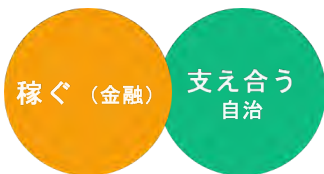
歴史的変遷：相互扶助から分断、そして現在へ

江戸時代～戦前



一体化していた 自治と庶民の金融

相互扶助の仕組み



講・結など、庶民が生活を守るための金融機能を持っていた

富士講 頼母子講 地域内循環

高度経済成長期～



「稼ぐ」と 「支え合う」の分断

行政依存・機能分化



経済は企業・銀行へ
自治は「無償のボランティア」や行政の下請けに変質

行政主導 公民館 公共投資

現代（2000年以降）



依存モデルの限界 自治力の低下

人口減少・財政難



「行政がやってくれる」モデルの崩壊。
「稼げない自治」は持続不可能に

人口減少 孤独・孤立

→ だから今、地域が「稼ぐ力（財布）」を取り戻す必要がある



泉北泉ヶ丘郵便局



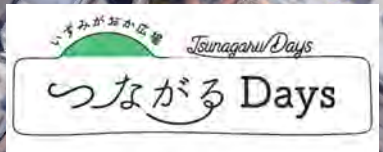
つながる食堂



泉ヶ丘

成城石井 泉ヶ丘店

泉ヶ丘センタービル



マメカン 泉北パンジョ店

泉北ラボ

堺市立ビッグバン

大蓮公園



茶山台

ローソン 堺高倉台店

高倉寺

自己紹介

参加と参画をつなげるコーディネーター コーディネーションをふっくに事業しています

コミュニティ単位のエリアマネジメントをコーディネーションすることに主眼を置いて伴走者・コンサルタントに徹している。事業で意識しているのは、コミュニティ成長の装置（Community Development Corporation）としての視点。住民や企業、社会的な課題解決に取り組む主体が長期的なビジョンを共有し、コレクティブインパクトの実現をめざしたコーディネーターを努めている。

団地50%以上のエリアの
住民主体のエリアマネジメント

中間
支援

企業と市民の
エリアマネジメント

企業
協働

電鉄会社と市民の
食のコーディネート

市民
参加

学校と地域による
エリアマネジメント

プレ
イヤー



丘の上の惣菜屋さんやまわけキッチン
大阪府住宅供給公社

大阪府住宅供給公社の団地再編プロジェクトのモデル地区。茶山台団地における暮らしやすさを高めるため、集会所を使った居場所づくりや惣菜屋さんを住民と起業し運営している



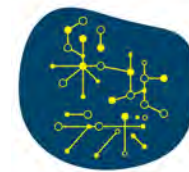
いずみがおか広場つながるDays
南海電鉄株式会社泉北事業部

乗降客数約5万人の泉ヶ丘駅前を中心とする事業者・市民によるエリアマネジメント組織の準備にむけたマーケットイベントを協働している



得意技を持つ市民
×
エリアマネジメント

食を通じて新しいコミュニティを泉ヶ丘駅前に生み出すために、南海電鉄さんとNPOにて、泉北ニュータウンの魅力を発信する食堂を運営している。



コミュニティ財団
×
まちの家事室

寄付を財源に資金的支援を行い、うだけでなく、地域連携の協議体を立ち上げ地域課題をコーディネーションする機関と施設を運営している。

自己紹介 普段何をしている人か？

泉北ニュータウン在住



1982年河内長野育ち。42歳双子座・O型、動物占いはライオン。もうすぐ12歳の水泳選手コースの娘と、天才的なコミュニティコーディネーターの妻と3人暮らし。今は、活性化に仕事で関わる泉北ニュータウンに住みながら、寝ても覚めてもニュータウン

1000世帯の 団地の自治会長



防災士。2年間PTA会長を務めたあと、1000世帯の団地の自治会の副会長1年、自治会長2年目。小学校区では副会長をつとめ、茶山台防災会議で議長を勤めている。

まちづくりの専門家

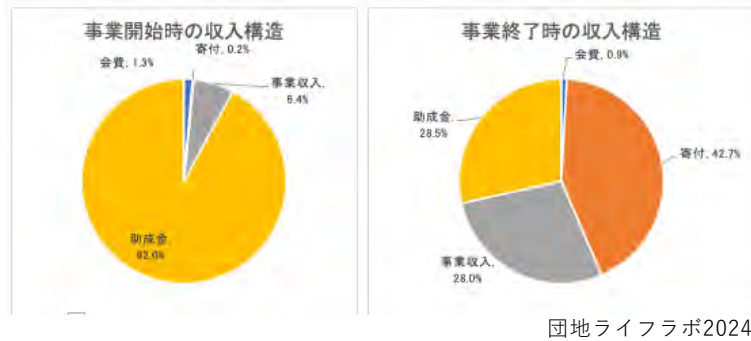


15歳に河内長野で青少年リーダー会という青少年の健全育成活動、自然体験学習のリーダーをはじめたことをきっかけに、高校2年生にはマーケットイベントを担当し、それ以後まちづくり分野に関わって28年目。今では南大阪のまちづくりやNPO・自治会支援の専門家としてカツそうしている。

地域でコミュニティビジネス型の地域活動をコーディネートしています。 近郊都市における「自走型自治モデル」の実装

泉北ニュータウンでは「まちの家事室泉北ラボ」や地域の拠点形成を通じて、地域住民の主体的な関わりを促し、「ネットワーク型自治」という新しい自治モデルを試行してきた。さらにこれまで泉北ラボの他に3地域支援してきた。

仮説1 収入のハイブリッド化



	事業開始時の収入構造		事業終了時の収入構造	
会費	¥ 60,000	1.3%	¥60,000	0.9%
寄付	¥ 10,000	0.2%	¥3,000,000	42.7%
事業収入	¥ 285,974	6.4%	¥1,965,974	28.0%
助成金	¥4,115,432	92.0%	¥2,000,000	28.5%
合計	¥4,471,406	100.0%	¥7,025,974	100.0%

自治モデルを持続させるためには、資金循環の仕組みを確立することが不可欠となる。これまで「泉北ラボ」をモデルに3施設を支援してきた。その間で寄付、事業収入、助成金のハイブリッド収入の構造で安定し始めている。

仮説2 課題を発掘する装置



自走型自治では課題を発掘する実行会議が重要になる。地域の諸課題を調査、発掘し、地域で課題の共有ができ、解決に向けた方法を確立することが求められる。地域の実行団体が会議を運営し、例えばコミュニティナースのように、より具体的で詳細な地域課題を発掘する担い手の参画、地域の社協や保健センター、包括支援センター等の行政の関係部局の参加が重要になる。

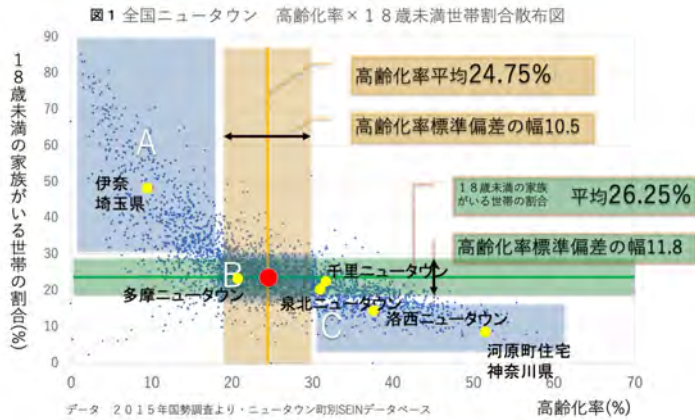
仮説3 敷居の低い居場所



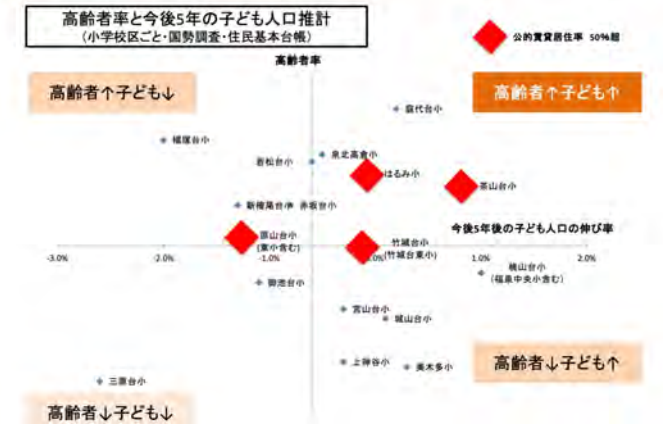
各地域で自治モデルを実行に移すためには、活動拠点の確保が不可欠となる。特にデザイン面では、気軽に立ち寄りたくなる温かみや身近さの表現が求められる。空き家や空き室の有効利用やコンバージョンによってこのような場所の確保が可能となる。

高齢化とコミュニティ希薄化が進む泉北ニュータウン

ニュータウンの地域課題は日本の縮図



一言でオールドニュータウンと語れない実情



課題の当事者か？ 担い手か？

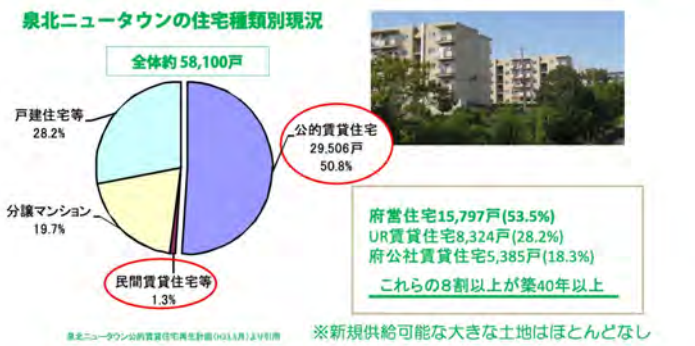
- ① 高齢者（65歳～）で
- ② 介護の必要がない方及び要支援1・2の方で
- ③ 食料品・日用品等の日常の買い物に困難又は不便な状況に置かれている方々が対象と想定しました。

要介護 5,836人	一人暮らし 5,916人	免許なし・免許返納 推計 2,822人
2017年9月末時点統計から堺市南区認定率推計値 21%		
要介護でない+要支援1・2 *41,012人 *内 2人に1人免許所持していない推計19,568人		

▶現在免許を持たない多くの高齢者は「おでかけ応援カード」でバスでの移動を積極的に活用されており、元気に買い物できる環境が整っている

▶実は、多くの高齢者の方が、要介護でない+要支援1・2であり買い物買物の再定義ができていない

全住戸の50% 公的賃貸住宅



事業所数が同規模市町村より少ない = チャレンジャーが生まれにくい



ニュータウンならではの 孤独孤立でも生きていける

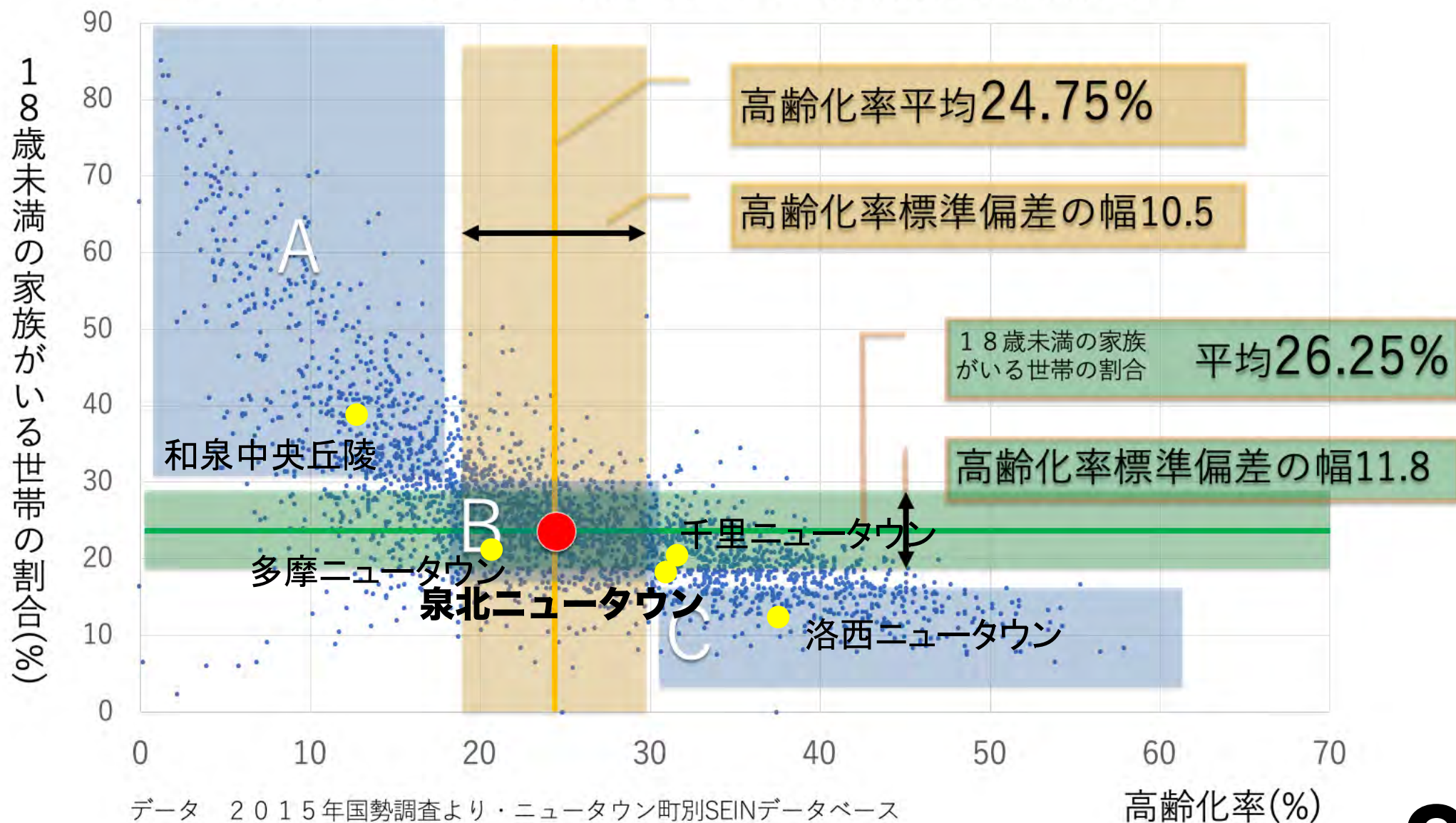


▶若年層のニーズに適した賃貸住宅の不足 + 住宅環境特有の社会的孤立の加速(ニーズに上がりにくい)

地域支援上の課題意識

ニュータウンは日本の縮図という危機意識

図1 全国ニュータウン 高齢化率×18歳未満世帯割合散布図



宝楽陸寛のソーシャルセクターでの経験 変化のときに必ず関係人口を増やす工夫をしてきた

2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

堺市市民活動コーナー受託
NPO法人SEIN入職



泉北ニュータウンまちびらき50周年事業
事業コンセプト設計

泉北ニュータウンまちびらき50周年事業

泉北のまちと暮らしを考える財団
寄付キャンペーン

一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団
まちの家事室泉北ラボ

河内長野世界民族音楽祭
市民プロデューサーに



大阪府若手プロデューサー



100遊び
河内材を使った楽器開発
咲つく南花台プロジェクト

大阪ガス・南大阪子育て支援ネットワーク
文化振興計画委員
いずみ市民大学まちづくり学部
コーディネーター

つながるDays
泉北ニュータウン散歩コース作成
やまわけキッチンスタート
コミュニティ界隈楽屋ニュース
堺東・銀座通り商店街マーケット
茶山台としよかんスタート



河内長野未来創造実行委員会
奥河内。ME

金剛寺落慶法要



観心寺音絵巻

つながる食堂スタート



解決策：市民コミュニティ財団という“器”

市民が「まちづくりのスポンサー」になる仕組み

「お金」だけでなく「志」を循環させ、当事者意識を持った地域経営のプラットフォームを作る



📁 地域の財布を作る

行政補助金に依存しない、地域独自の「自前の財源」を確保。

📝 使い道を市民が決める

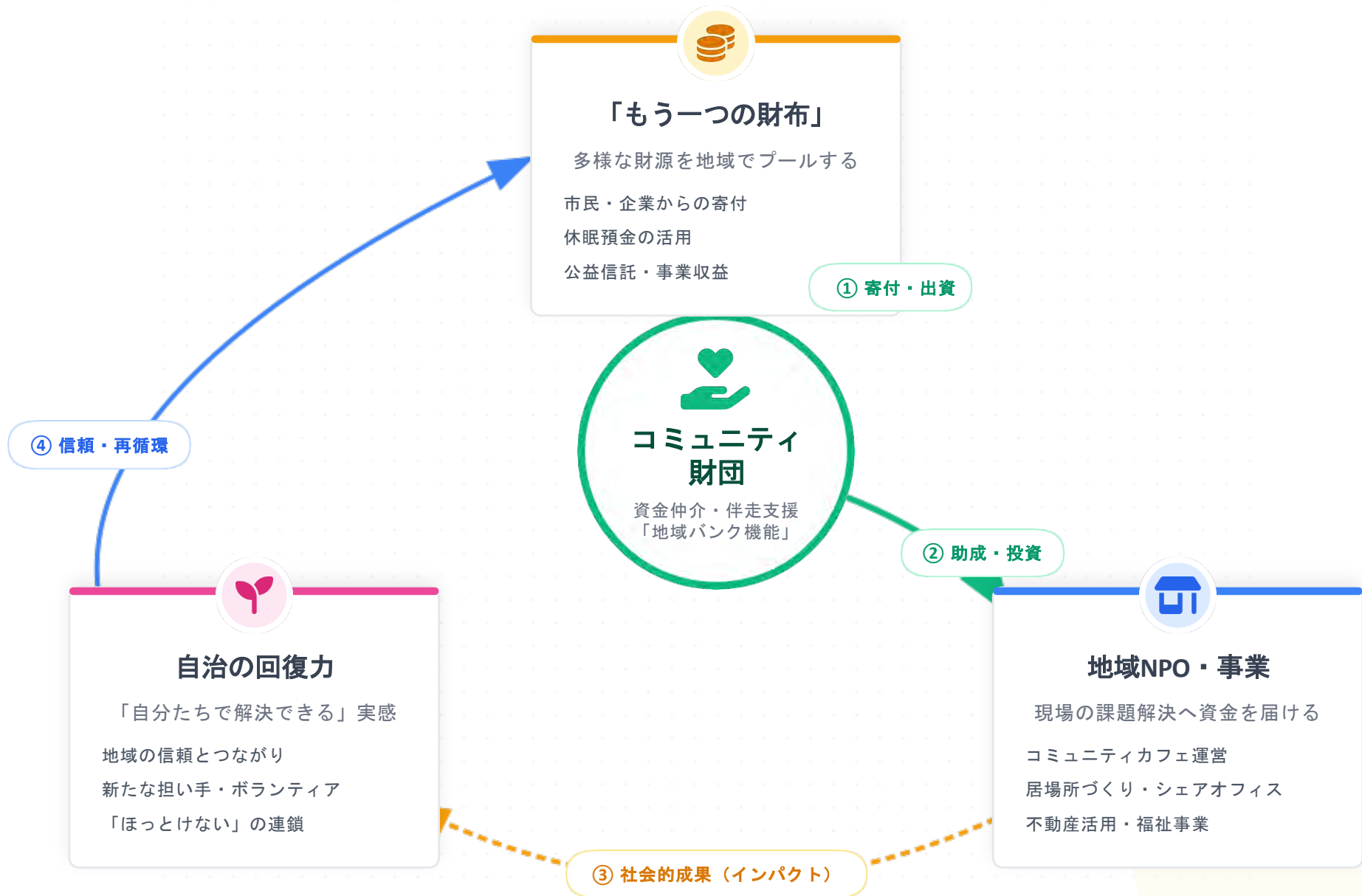
公開審査会等を通じ、助成先選びに市民が参加決定プロセスを公開。

🌱 ヒト・コトを育てる

資金提供だけでなく、活動への伴走を通じて、地域の担い手を育成。

自走型自治モデル：コミュニティ財団の資金循環

依存から自律へ。相互扶助の現代版「もう一つの財布」を再起動する



50周年事業が生んだ地域連携の芽

「出会う・つながる・歩み出す：地域プレイヤーのネットワーク化」

対象エリア 泉北ニュータウンとして大阪府下

* 泉北高速鉄道沿線のまち

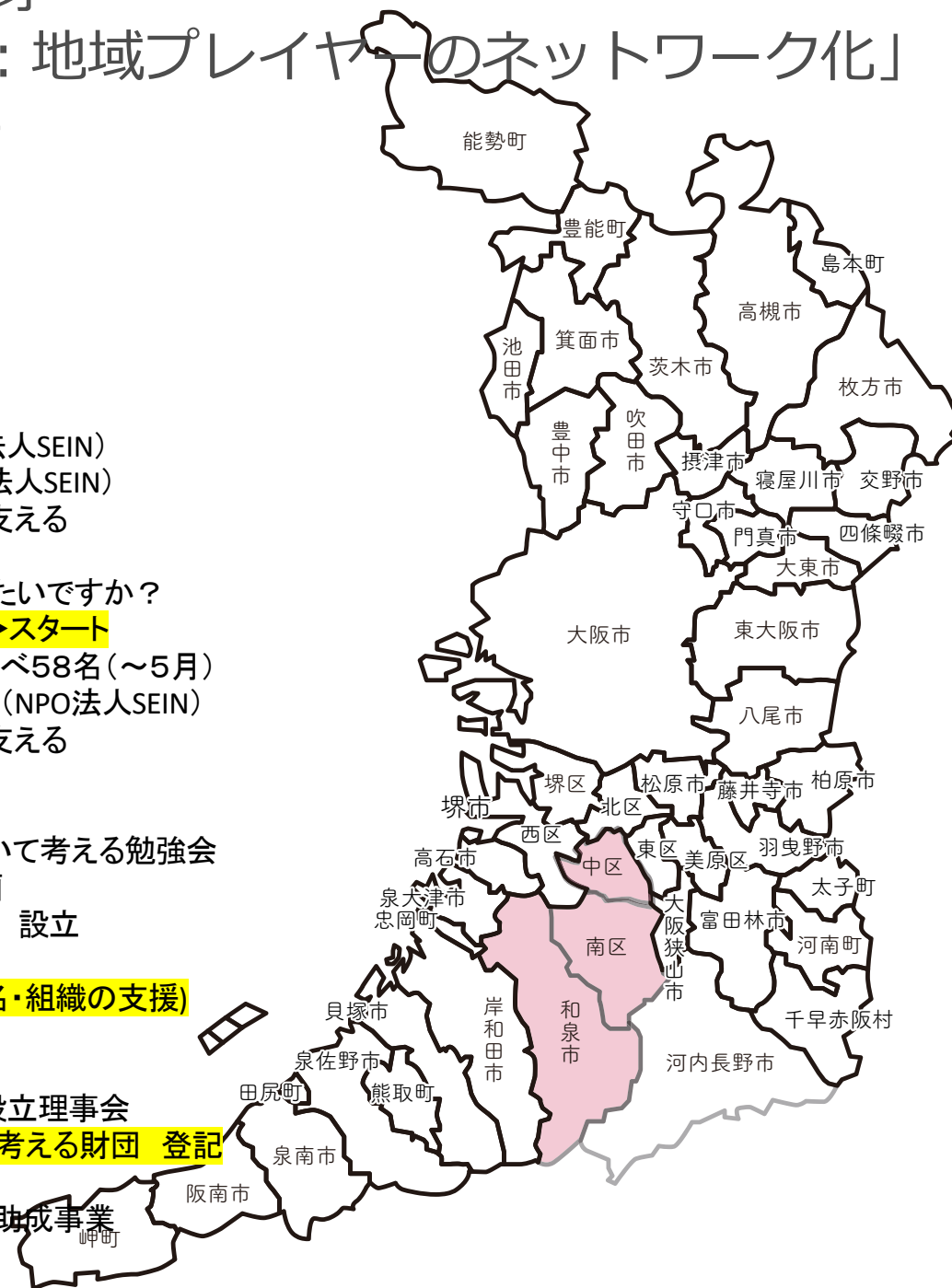
対象人口 * 堺市南区 139,669人

* 和泉市 186,079人

* 堺市中区 122,348人

設立までの流れ

- 2016年4月 全国コミュニティ財団協会準会員(NPO法人SEIN)
- 2017年4月 コレクティブインパクト事業に認定(NPO法人SEIN)
「どんな子どもも見捨てない地域資源で支えるプラットフォームの構築」
- 2017年12月 30年後、どんなまちを子どもたちに残したいですか？
子育て世代30-40代30名が集まる▶▶▶スタート
- 2018年 1月 「まち」「暮らし」について考える座談会のべ58名(～5月)
- 4月 コレクティブインパクト助成金エントリー (NPO法人SEIN)
「どんな子どもも見捨てない地域資源で支えるプラットフォームの構築」
- 5月 設立賛同者「サムズ」102名
- 6月 「子どもを中心に据えたまちづくり」について考える勉強会
サムズと議論・財団の最初の事業を企画
- 12月 泉北のまちと暮らしを考える財団準備室 設立
- 2019年 1月 寄附キャンペーンスタート
- 8月 設立基本財産3,325,026円達成(304名・組織の支援)
- 9月 準備室にて経営体制議論開始
- 12月 29日設立者総会開催
- 2020年 1月 14日泉北のまちと暮らしを考える財団設立理事会
- 2月 3日 一般財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 登記
- 2022年 6月 15日 公益財団法人として認定
- 8月 泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成事業
休眠預金事業支援先決定
- 9月 税額控除団体としてPST認定



過去6期の寄付の推移

公益財団法人
泉北のまちと暮らしを考える財団
コミュニティ基金



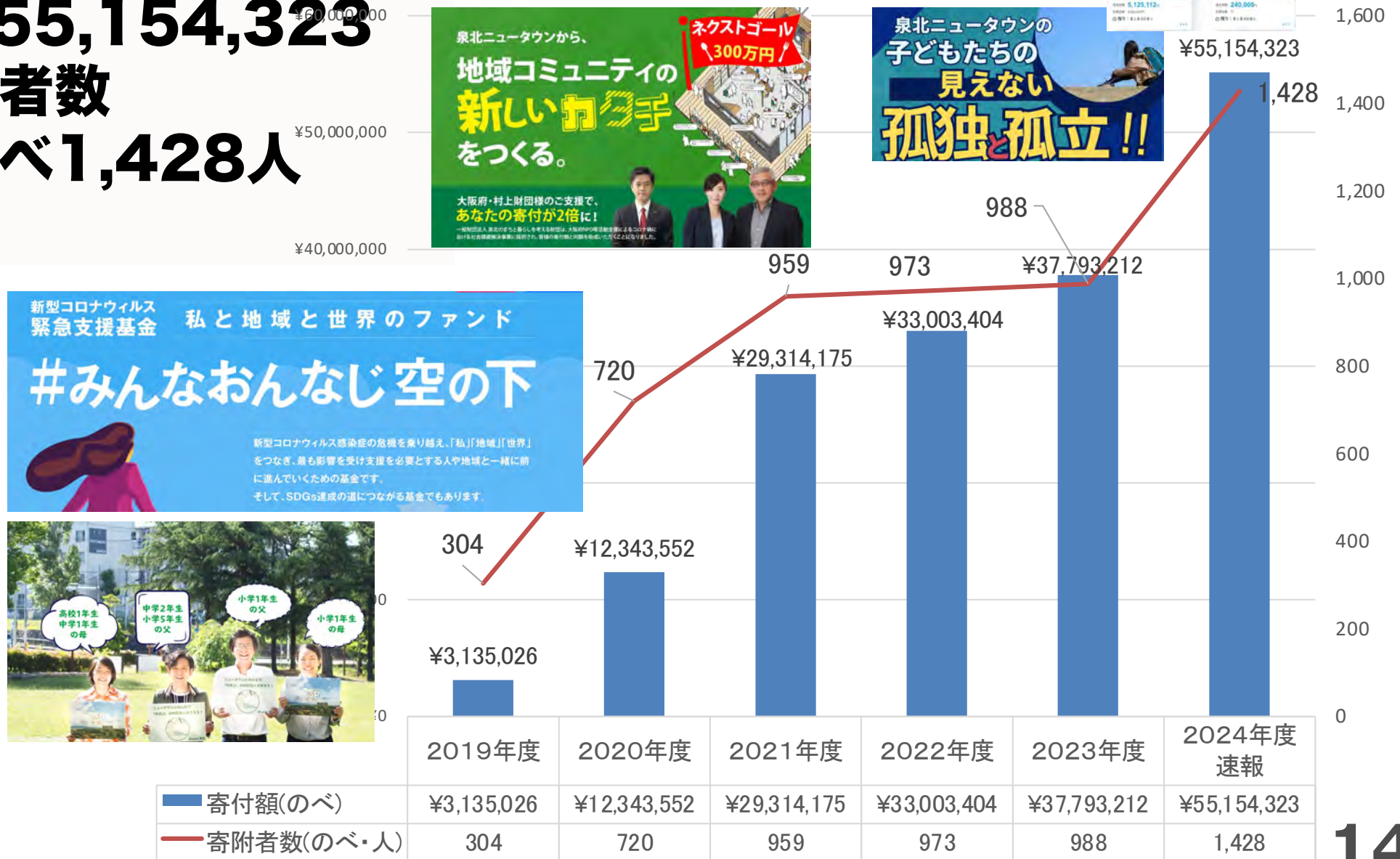
のべ寄付額

¥55,154,323

寄付者数

のべ1,428人

年間寄付額と寄附者の推移





～出会う、つながる、歩み出す～

50年前に生まれた泉北ニュータウンは、
様々な暮らしを育んできました。

未来を語る場の創出 — 市民主体の座談会から始動 30年後、どんなまちを子どもたちに残したいですか？

2017年末 自主座談会

30年後、このまちをどうしたいか？ 過去の賞賛から、未来への責任へ

50周年事業の終了直後、30～40代の若手世代や子育て層が中心となり、自主的な座談会を開催しました。

これまでの「記念事業」的な一過性のイベントではなく、「自分たちが住み続ける未来」を真剣に語り合う場へと質が変化しました。

📣 合意形成されたビジョン

「もっと人と人がつながるまちにしたい」「行政任せではなく、自分たちの手で将来を切り拓く」

この座談会を通じて、「地場の人」が主役となる覚悟が共有され後の財団設立へと続く原動力となりました。



「地域の未来」を語り合う住民ワークショップの熱気



✔ 「自分ごと化」へのパラダイムシフト

ちいき座談会



2018.04-05

全10回

8か所で開催

のべ参加数 **58**名

(事務局・ゲスト除く)

超少子高齢化の中で、
看過されがちな

- ・こども
- ・障がい者
- ・外国人など

地域での支えが必要な
当事者をテーマとした。

茶山台団地における自走型コミュニティ実践

- 66 住民が主体となり、団地の空き住戸や集会所を活用して「居場所」と「出番」を創出。それぞれの拠点が連携し、多世代が交流する自律的なコミュニティエコシステムを形成しています。



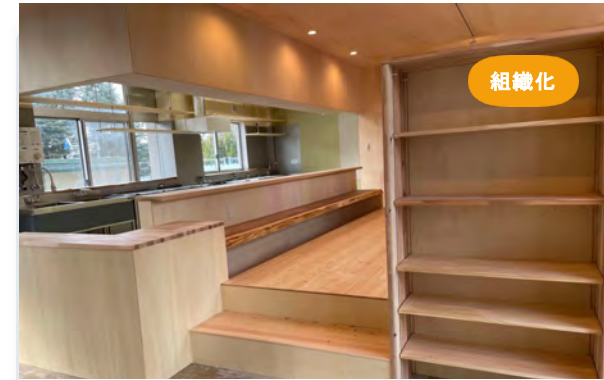
📖 茶山台としょかん

住民が本を持ち寄り、手作りの本棚で運営する小さな図書館。単なる貸出の場ではなく、井戸端会議や子どもの学習支援など、多目的な交流拠点として機能。



🍴 やまわけキッチン

買い物弱者支援と孤食防止を目指すコミュニティ食堂。手作りの惣菜販売とイートインを提供し、高齢者から子育て世代までが集う「食の社交場」。



🏠 団地で夢がかなう7棟集会所

7棟集会所をフルリノベーション！団地でこれからの時代にフィットした新たな試み。働く世代への支援不足が浮き彫りになり、クラウドファンディングでフルリノベーション



コミュニティ再生の定量的成果

若者を引き寄せる魅力的な地域コンテンツへと成長

入距離

93%

若年世帯の新規入居

101世帯増

(2017～2019年実績 / 公社調べ)

これまでの茶山台の変化

2017年度
コミュニティデザイン初期
「茶山台としょかん」



- 茶山台としょかん開館
→NPO法人SEIN合流



- 変化
- ・ 中間支援組織(NPO法人SEIN)によるコーディネーション
 - ・ 公社による団地再生モデルの実施

2018年度
全住民のニーズ把握
「やまわけキッチン始動」



- やまわけキッチン開館
- DIYのいえ開館
→やまわけDIYチームが移行
- オトナカイギ
→持ち寄り型晩ごはん会
料理得意な住民の活躍



- 変化
- ・ 全住民アンケートに基づくコミュニティ事業の実施
 - ・ 得意な力を持つ住民の活躍の場の提供が開始された

2021年度
複合型コミュニティへの移行
→地域コミュニティが混ざる



- 茶山台としょかん実行委員会
- ひばり子ども会復活
- 16棟マルシェ
- パパ友飲み会
- NPO法人団地ライフラボ開始
→住民型中間支援組織



- 変化
- ・ 得意を活かした住民が小さいコミュニティに参画する
 - ・ SOSを発する住民とSOSを受信する住民の増加

2023年度
自走型自治モデルへの移行
→団地ライフラボ



- 団地ライフラボ開始
→団地型グリーンスローモビリティ開始
→任意の後見人制度
「見守っちゃう」開始
→コミュニティガーデン型集会所改修
- 公社と各団体が参画する協議体設置



- 変化
- ・ SOSを発する住民の住民カルテによる捕捉と、SOSを受信する仕組みが生まれた
 - ・ 公社による住民への財源と権限の委譲

振り返ってみた 私の得意×求められること×やりたいことは
社会的孤立も防いでいた



取り組みの裏側にある
一人ひとりの物語があり

社会的孤立に陥る危機を防いできた

「DIYでみんなで作る！」

で得た成功体験
「趣味・得意でつながるコミュニティ」



DIYで居場所をみんなで作って、そこに得意な技を持つ仲間が出会いました。



今ではDIY工房を持ち、生活支援も実施。

新しい自治モデル 役割と権限を有する自治

7棟集会所をフルリノベーション | 泉北で働く世代が「ホッ」とできる、新しいサードプレイスをつくりたい！



7棟集会所をフルリノベーション | 泉北で働く世代が「ホッ」とできる、新しいサードプレイスをつくりたい！

達成金額

5,000,090円 目標金額：5,000,000円

100%

🕒 残り：0日 3時間 0分

シェアカフェ
&
たこ焼き部
ができる
新しいコミュニティ拠点



7棟 集会所

ジェアキッチン付きの多目的な集会所。昼間は軽食とコーヒー。夜はたこ焼き。

“おいしい”と“やさしい”を叶えるから嬉しいな米粉のおやつ
米粉と発酵おやつcocoti (こちこ)



●夏季限定
アイスクリーム
天然酵母米粉パン
& 焼き菓子

日時 8月1・2・8日
11時30分～15時30分



ふわっともちり米粉パン
グルテンフリー 米粉パンKipumu



米粉100%で、小麦アレルギーの方でも安心! みんなで一緒に
美味しいものを食べて喜んでいただきたいと思い、作り始めました。
米粉パンも販売します。

●小麦粉、卵、乳製品不使用の米粉のパン、蒸しパン

日時 8月14・23・28日
10時30分～16時



国産小麦100%の手作りパン
パン工房CROWA



●クロワッサン、メ
ロンパン、その他季
節限定パンなど
毎日食べても飽き
ないパン

日時 8月9日 11時30分～16時



自家製酵母のおやつや
goo goo (ぐーぐー)



●自家製酵母を
使ったスコーンと
ドーナツ、その他
季節のおやつなど

日時 8月7日・13日・26日・27日
10時30分～16時



7人集まれば毎日開けられる! たこ焼き部員募集中!
たこ焼き部7



たこ焼きで住民のみなさまに喜びを届け、コミュニ
ケーションを楽しみ、いかに美味しいたこ焼きにな
るかを探求する部活動。テイクアウトもOK!

●たこ焼き・泉北レモンを使ったレモンサワーなど
300円～

日時 8月5・6・7・19・25・26・28・29日
17～21時



ドリンクメニュー コーヒー(Ice/Hot) ¥400 ※それ以外のドリンクは、各出店者によって用意しています。

茶べり場

何もしなくてもいい、なにかしてもいい。
ただぼっとできる場所、ぼっとできる時間に
使ってくれればいい。中学生が主な対象。
勉強サポートも同時開催!

日時 8月20日(水) 18～21時

茶山の子食堂

茶山台に住む子どもたちと、月1回土曜日の昼ごはんを
一緒に食べる子ども食堂「茶山の子食堂」です。

日時 8月30日(土) 11時30分～13時30分

場所 7棟集会所

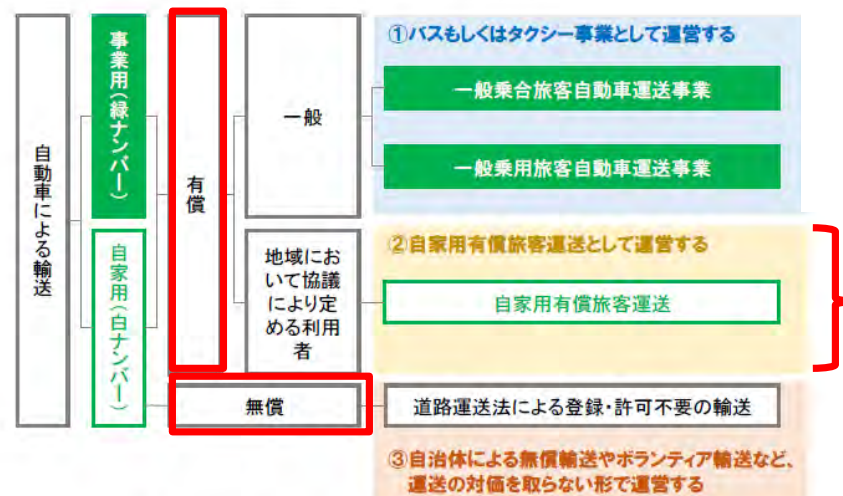
料金 子ども100円・大人200円 メニュー 甘口カレーうどん



料理の得意な住民さんの日替わりカフェ



グリーンスローモビリティ・茶山台「ちゃやまっくる」



1回150円
自家用無償運送で実施

▲グリーンスローモビリティ運行の事業形態の法令上の位置づけ

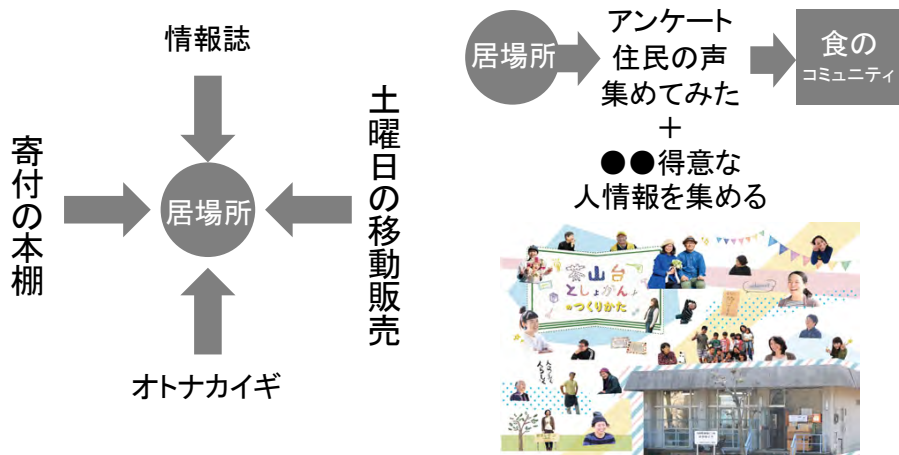
住民の移動を住民が支える見守り



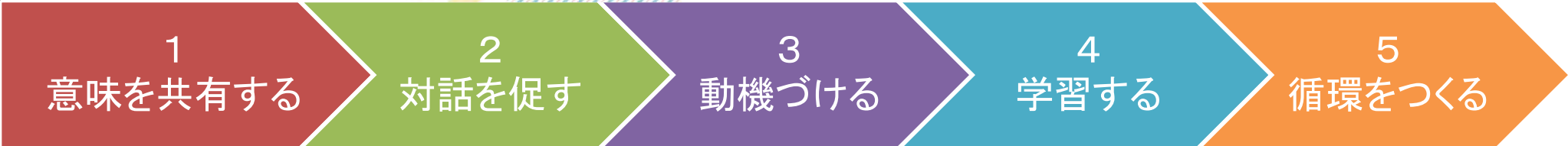
住民ひとり一人の「得意なこと」を持ち寄るコミュニティへと変化

コミュニティを中心に寄せる 違和感でアンケート 声を共有して新しい事業を 高め合う住民コミュニティに

気づく前

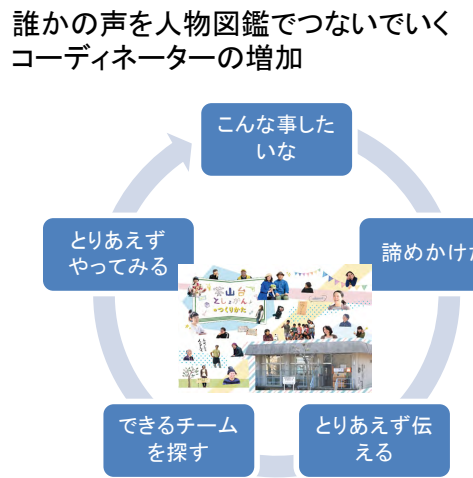
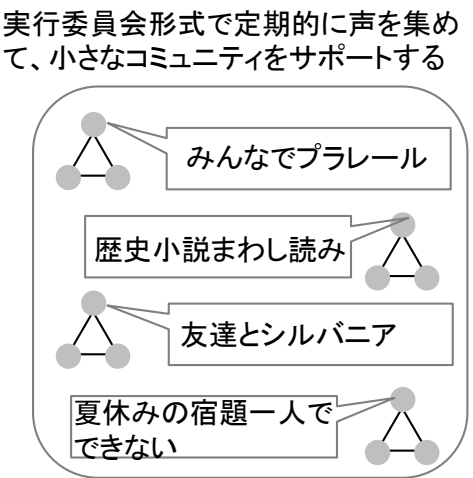
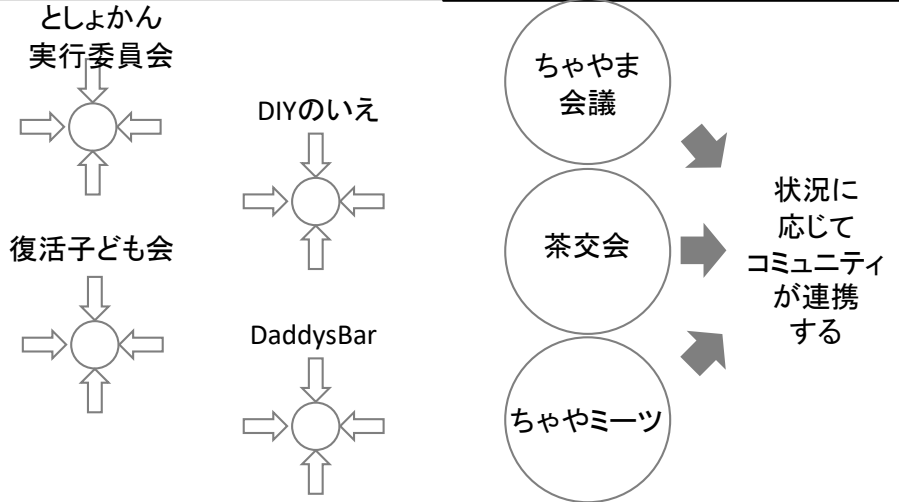


**クラファン失敗
不足分を住民
参加DIYで実施
作業日
のべ24日
参加者
のべ181人**



気づいた後

多様なコミュニティを生む ネットワークの連携 一人の声を見逃さない 私の声って伝えて良いんだ



市民による法人化がもたらす構造的意義


コミュニティ経済におけるまちづくりの構造転換

これまでの構造

 **行政主導・トップダウン**
(下請け・単発補助金)



新しい構造

 **住民主体・ボトムアップ**
(対等連携・資金循環)

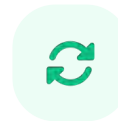
法人化は単なる形式ではなく「地域のOS（基本ソフト）を入れ替える」プロセス



1. 権限の市民シフト

行政の下請けではなく、対等なパートナーとして地域の役割を担う。法人格を持つことで、公社や大学との公式な協定（4者協働等）が可能になり、活動の信頼性と継続性が担保される。

公益財団法人



2. 財源の循環と自立

行政補助金への依存から脱却し、地域内の寄付や事業収入による「地産地消型」の資金循環を構築。用途が見える「温かいお金」が地域を巡ることで、経済的な持続可能性が高まる。

???
??????



3. 意識の変革（自分ごと化）

「行政がやってくれる」という客体意識から、「自分たちがまちの未来を決める」という当事者意識へ。市民が助成先の選定や運営に関わることで、新しい自治の文化が醸成される。

関係人口強化

✔ 担い手・財源・意識の「三位一体」改革

その鍵はコーディネーターという人材 「いいお湯加減」をつくる関係性

地域活動を継続するには、バランスの取れた「温度感」が必要
自分一人で抱え込まない。

「いいお湯加減の人たち」を増やしていくことが、持続的な活動の秘訣。
コミュニティ内で「コーディネーター役」を増やし、自然と人が関われる環境をつくる。

大学生
コーディネーター

専門機関
プロボノ
コーディネーター

子育てママ
コーディネーター



コミュニティを広げる人ってどんなイメージ？

一般的なまちづくりを担う人への
市民のイメージや期待



情熱的なことも大事
パワフルなことも大事

私がまちづくりうまくしているな—
と思う担い手の基本姿勢



いいお湯加減の雰囲気
に巻き込める人

背景 なぜ実行会議が必要か

ボトムアップ型の 解決モデル



- ▶ 高齢者の独居、子育ての孤立、ヤングケアラーなど、制度の狭間にある課題が増加
- ▶ 「誰かがやるだろう」「行政の仕事」という意識により、問題が複雑化・深刻化



- ▶ 従来のケース会議からこぼれ落ちる課題を、地域主体の「実行会議」で受け止める
- ▶ 拠点（ハード）があるから人が集まり、そこで見えた課題を解決する仕組み（ソフト）が生まれる

課題解決のレイヤー構造

最下部の「発見」を起点に上位へ接続

解決できない課題は接続

行政・専門機関への連携



実行会議（地域主体）

会議のための会議ではなく、
短期間で参集し「地域でできること」を実行






困りごとの発見（地域の日常）

実行会議とは（ケース会議との違い）

従来の「ケース会議」




制度・専門家中心のアプローチ

-  専門職のみ（行政、社協、包括、ケアマネ等）
※縦割りの組織構造が反映されやすい
-  「支援する側」と「される側」が明確
専門知に基づくトップダウン型の判断
-  既存制度への当てはめ・サービス調整
「できること／できないこと」の線引き

VS

提案する「実行会議」

地域・生活者主体の課題解決

-  **専門職 + 住民（半々が理想）**
自治会、民生委員、近隣店舗、学生など多様な主体
-  **フラットな協議体（ブリッジ型）**
「一緒にやりたい人」「話したい人」が集まる場
-  **「いいお湯加減」を作れるハブ人材**
守秘義務を徹底しつつ、具体的なアクション（実行）へ

i

ここがポイント：専門知（構造化）と住民知（具体性）の化学反応により、制度の隙間にある課題の解像度を上げ、実効性のある解決策を生み出します。

ケースマネジメントとハブ人材の役割

ボトムアップ型の政策形成



STEP 4

政策化・制度実装

地域で実証されたモデルを行政計画へ



STEP 3

地域実験（ソリューション実行）

民間・地域資源を活用してまずやってみる



STEP 2

構造の可視化

「個人の問題」から「地域の課題」へ変換

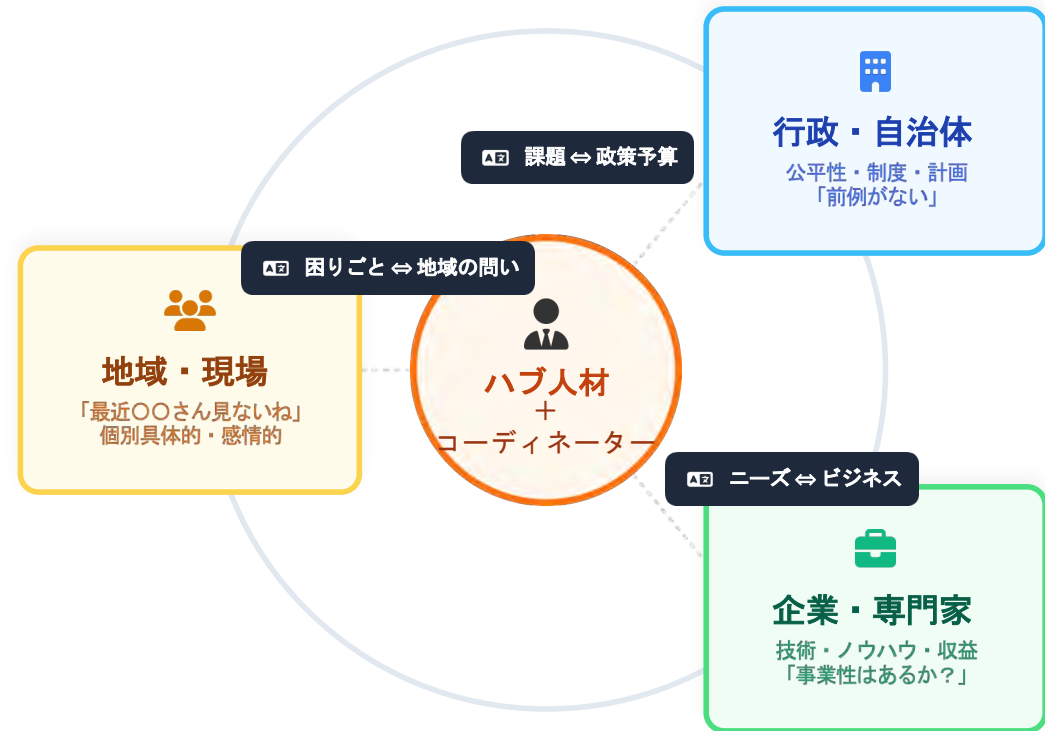


STEP 1

ケース検討の反復

現場で起きている困りごとの蓄積

品 ハブ人材の機能：インタープリター（通訳者）



異なる論理・言語を持つ3者
をつなぎ、共創を生み出す

地域資産を「新しいコモンズ」に変える～ ～公益信託を活用した自治型社会モデルの構築

本プロジェクトが最終的に目指すのは、地域住民が自らの役割を実感し、自律的に地域課題に取り組み、持続可能な地域経済と暮らしの仕組みを生み出す社会である。

地域の資産や資源を活かした
公益信託を形成
→コミュニティが
行政依存から脱却した財政的自立

1

自治の住民が主体的に関わる
ネットワーク型 への移行
→ネットワーク形成になるハブの鍵
= 財源と権限

2

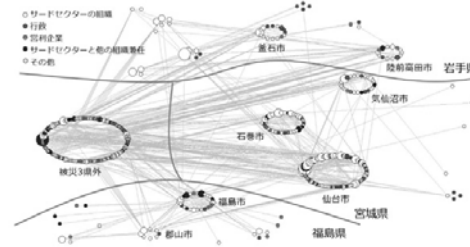
多様な主体と地域住民が
パートナーシップを形成
→外的要因に左右されない柔軟な強さ
を持つ地域社会の実現

3

居場所



新しいコモンズ



× コミュニティビジネス

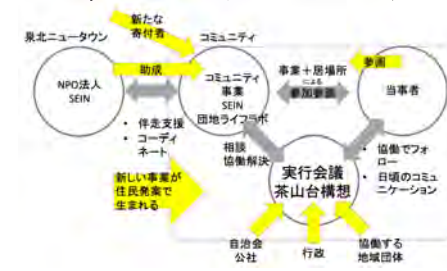


× 基盤を支えるコミュニティ財団



地域内ネットワーク

× 新しい寄付財源



10周年に向けた3つの目標

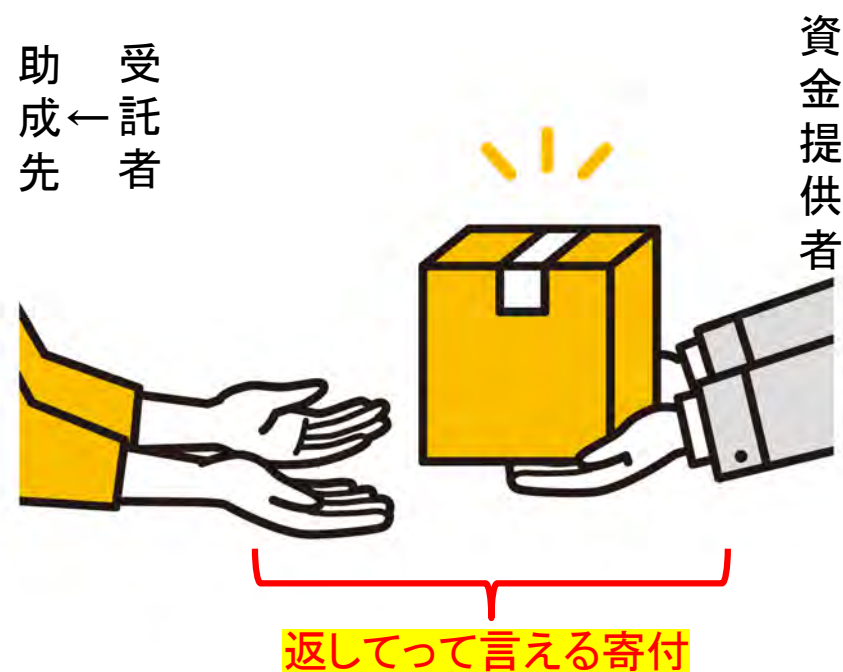
- ✓ 2029年度寄付総額 **5億**円を目指す
- ✓ 1000人の寄付者が発信協力者となり
のべ **1万人の寄付者**を実現する
- ✓ 地域に新しい資金循環を生み出し
地域の課題解決と理想実現のために
大阪の市民コミュニティ財団として成長する

遺贈寄付



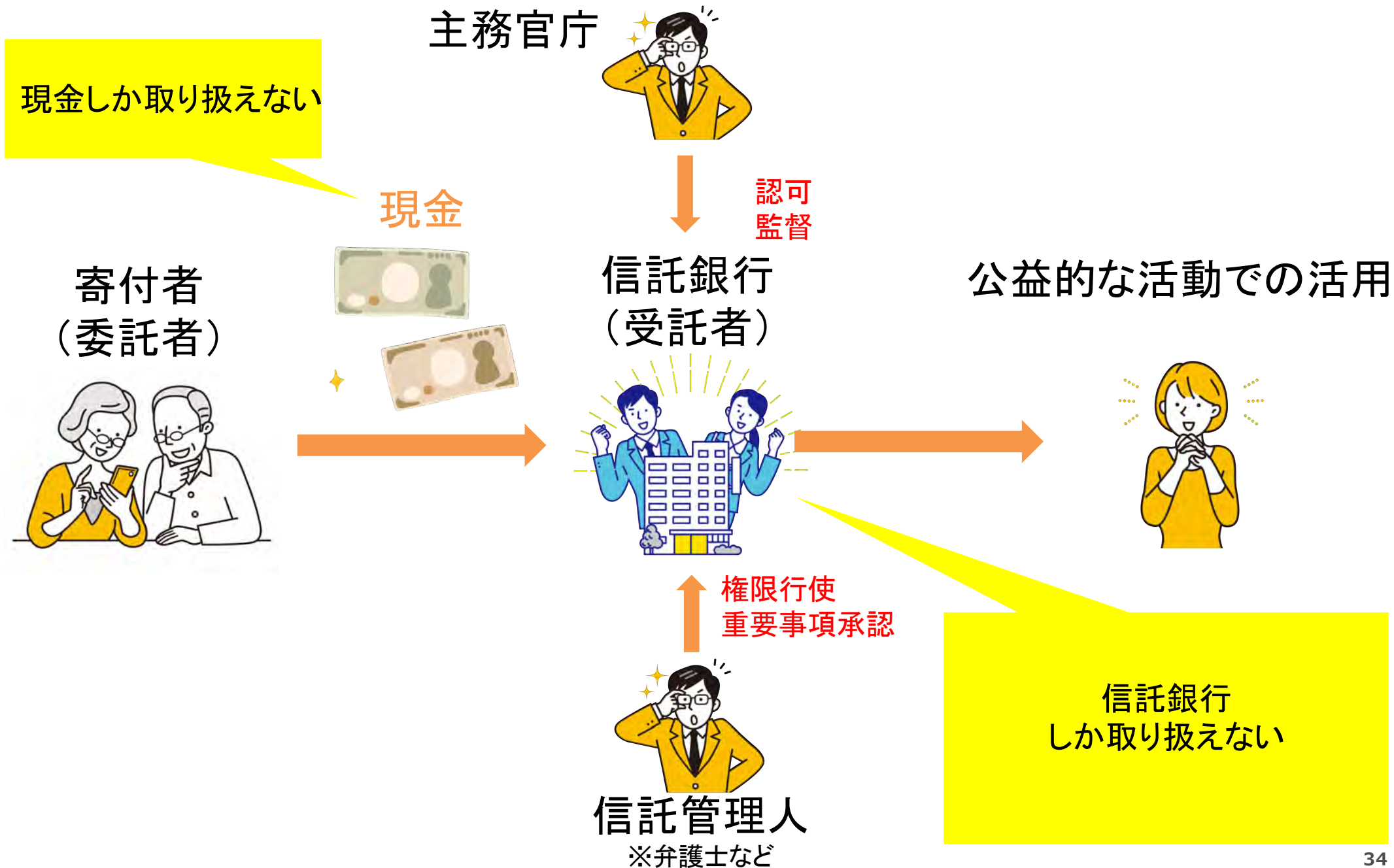
遺言書を作成し遺産または、
相続財産を
団体に無償で贈与する寄付

新たな公益信託

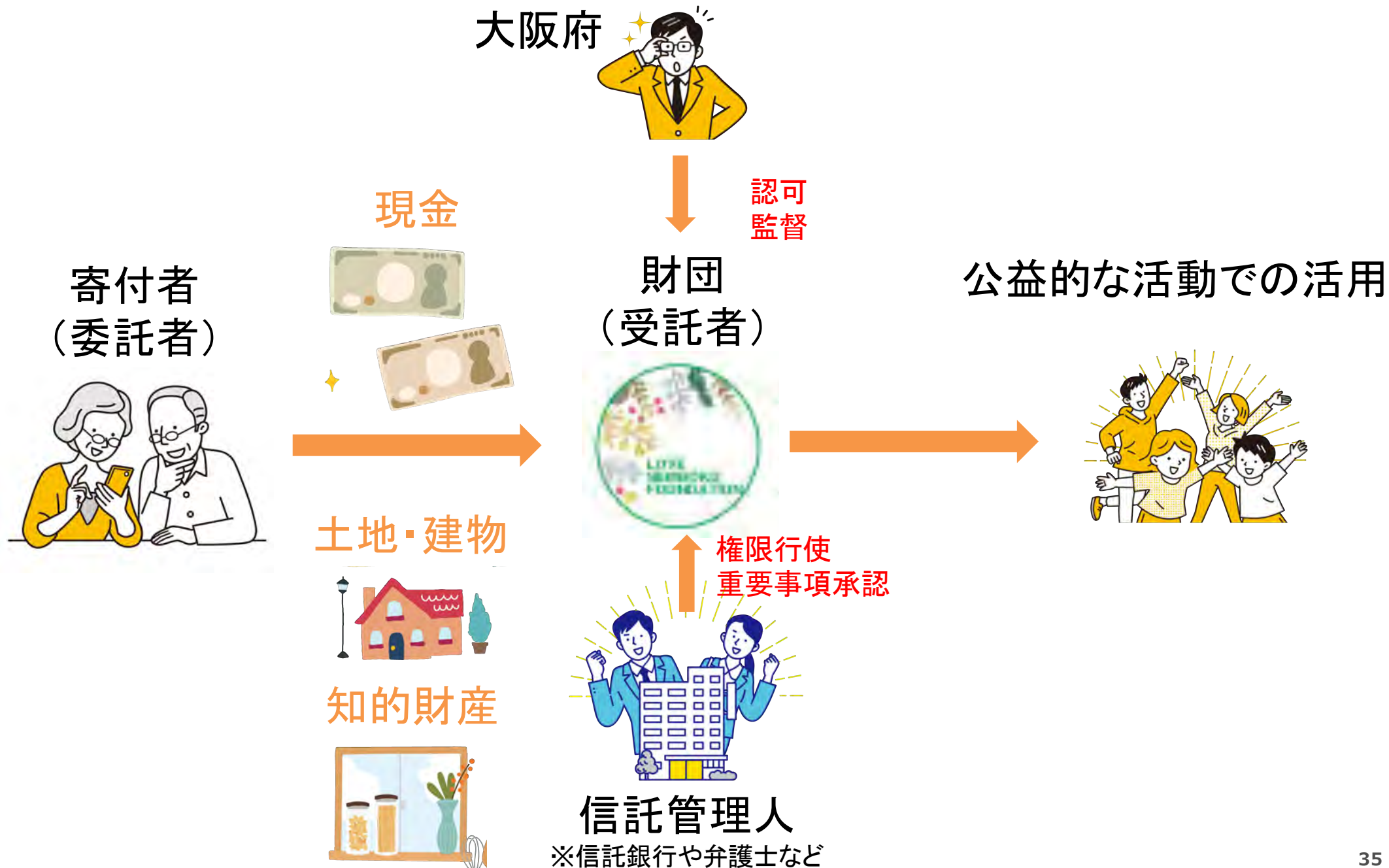


公益活動を行いたいが、何を
したら良いか分からないが、
自分の資産を社会のために
活かしたい寄付

現行の公益信託とは？



新たな公益信託とは？



課題解決力とコミュニティビジネス力で打開できないか？

空き家・空きテナントの活用



高齢化する山主の里山



担い手が失われた田畑



▼
フリースクール×カフェ



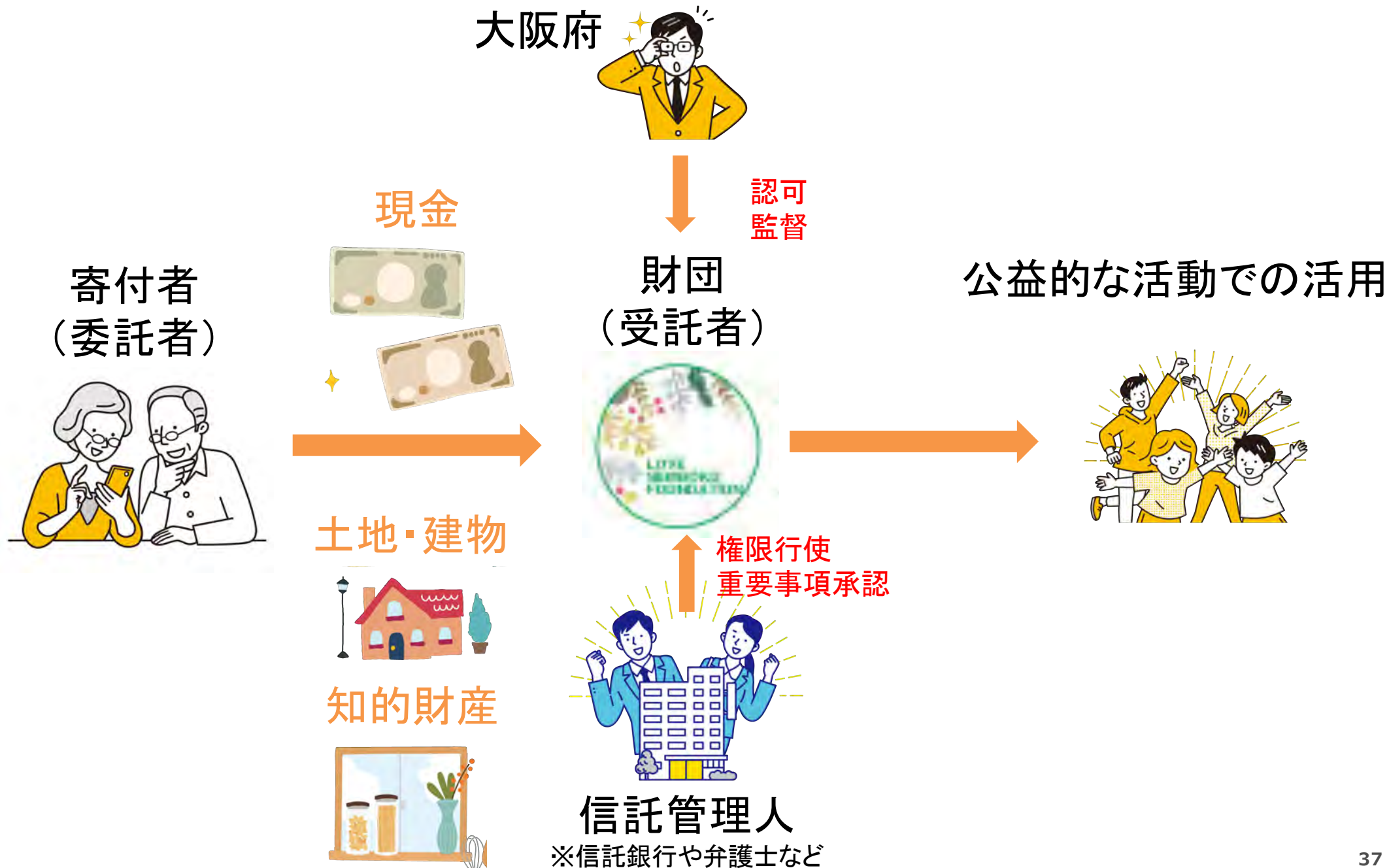
▼
里山活動×山の保全



▼
ひきこもり×畑体験



新たな公益信託とは？



課題解決力とコミュニティビジネス力で打開できないか？

空き家・空きテナントの活用



▼
フリースクール×カフェ



高齢化する山主の里山



▼
里山活動×山の保全



担い手が失われた田畑

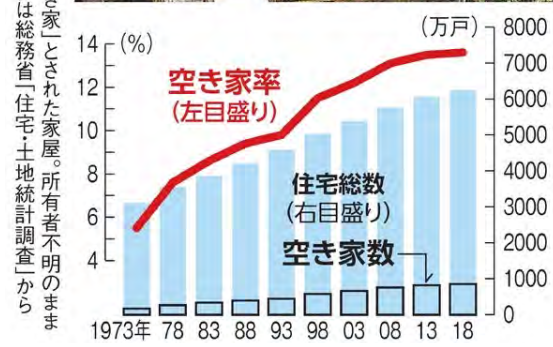


▼
ひきこもり×畑体験

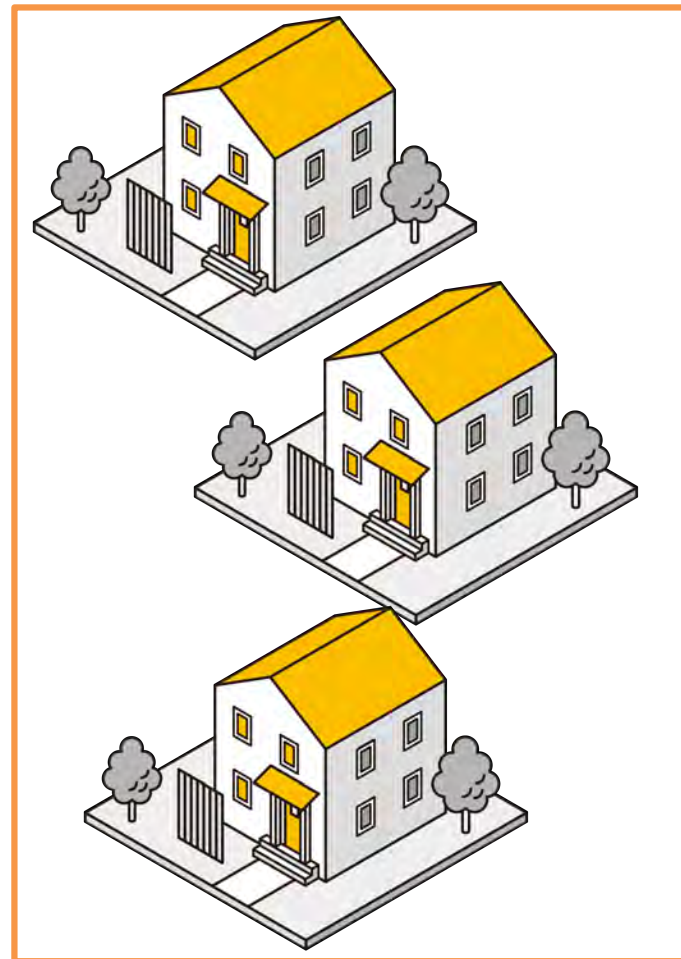


新たな公益信託で打開する眠る資産の活用イメージ

専門家も頭を抱える



複数の物件を
ニュータウンの
新しいコモンズ基金
を立ち上げる



基金
への寄付で
管理費を補う

寄付



課題の
改善



基金は
資金の運用も
可能

出資



リターン



ご清聴ありがとうございました！

寄付で現在進行形の自走型自治モデル を寄付で応援しませんか？

ニュータウンの
まちづくりを寄付で応援！

共著です！

視察大歓迎！！！！



講座付き視察

■メニュー

●公益財団法人泉北のまちと暮らしを
考える財団が生まれるきっかけや活動
内容

●泉北ラボが生まれるきっかけや活動
内容

●コミュニティフリッジの仕組みや生
まれる背景や展望

などについて 代表理事 宝楽陸寛
がご案内いたします。

